

ガンバってます！^{まち}地域の社会福祉法人

—広く府民に先進的取り組みを紹介 大阪府経営協の取り組み—

社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 経営者部会

大阪府社会福祉協議会経営者部会（会長・高岡國士）は、さる2月14日（日）、「先進的福祉活動セミナー」を大阪府、大阪府福祉人材センターとの共催で開催した。

会場となった、シティプラザ大阪（大阪市中央区）には、福祉関係者をはじめ養成学校等の教員、学生、一般市民など250余名が集まった。

そもそもこのセミナーは、大阪府が先進的な福祉活動に対して補助をする「先進的取組パイロット事業」（資料参照）という事業に端を発している。

ここで選ばれた事業を中心として、

①社会福祉法人が地域でいろいろなかたちで活躍している姿をもっと広く知ってもらう機会づくり

あわせて、福祉人材の確保、定着が難しいなかで、マスコミ等によるマイナスイメージを払拭し福祉や介護職場への理解を深め、

②「福祉や介護職場のイメージアップ」の機会づくり

さらには、

③もっと多くの社会福祉法人に地域貢献活動に広く取り組んでもらいたい

というねらいをもって企画し、大阪府教育委員会、大阪府立大学、関西福祉科学大学から後援をいただくことができた。

主催者を代表した高岡会長の挨拶のあと、第1部では、先進的取組パイロット事業の審査委員長を務める大阪府立大学の関川芳孝教授から、開催趣旨や社会福祉法人の今日的な経営課題について基調講演をいただき、第2部では「先進的取組5事業の実践発表」を行った。

ガンバってます！^{まち}地域の社会福祉法人

—実践発表—

以下、発表した5事業の概要を紹介する。



関川芳孝教授による基調講演



園芸福祉活動の発表風景

①社会福祉法人による社会貢献事業 (生活レスキュー活動)

これは、社会福祉法人の公益性に着目した事業で、府内の老人福祉施設に配置するCSW（コミュニティソーシャルワーカー）が地域の生活相談活動を通して、相談者の不安心理的の軽減、利用可能な制度へのつなぎ、必要に応じた経済援助の実施といった生活レスキュー活動を実践している。その経済援助の原資は、事業参加する社会福祉法人の拠出金により賄われている（本誌2009年7月号で紹介）。

②保育園の地域貢献生活サポート事業 (スマイルサポーター事業)

保育所の育児相談機能のノウハウを高め、子どもからその親、さらに地域にも視線を広げて生活相談事業を展開する。

③園芸福祉を通じた地域貢献事業

特別養護老人ホームで始めた園芸福祉活動のノウハウを企業やNPOなどが協働し、空き地を「コミュニティー・ガーデン」として再生させ、新たな地域福祉のネットワークづくりから、障がい者等の就労のきっかけづくりを支援する。

④認知症予防自立支援のための研究事業

認知症の予防を目的として、特別養護老人ホーム等と大学が協働するかたちで調査研究を重ね、その成果を地域に還元する。

⑤児童福祉施設職員の養成講座

児童福祉施設での就職を希望する大学生等を対象に、施設現場の最新情報の提供や実践技術を習得してもらうとともに、就職前後に感じる現実とのギャップの可能な限りの解消と、燃えつき退職

の防止による人材の確保・定着・育成を目的として実施している（本誌2009年9月号で紹介）。

ガンバってます！ 施設職員たち —若手職員との意見交換—

第3部では、前記の関川教授の進行により、実践発表のあった事業を第一線で支える若手職員等6人に登壇してもらい、学生をはじめとする会場参加者との意見交換を行った。また、ゲストコメンテーターとして、後援いただいた関西福祉科学大学の佐藤貞良准教授にも加わっていただいた。

●社会福祉法人による社会貢献事業

（福）大阪府社会福祉協議会・社会貢献支援員の織田真美（おだまみ）さん

●保育園の地域貢献生活サポート事業

（福）泉佐野ルーテル福祉会・泉佐野ルーテル保育園から保育士の池田奈々子（いけだななこ）さん、中出裕子（なかでゆうこ）さん

●園芸福祉を通じた地域貢献事業

（福）水平会「園芸福祉を通じた地域貢献実行委員会」事務局から初級園芸福祉士の古田真紀（ふるたまき）さん



支援員の小田さん



保育士の池田さん



保育士の中出さん



初級園芸福祉士の古田さん



臨床心理士の桑田さん



児童指導員の黒岩さん



会場からさまざまな質問が飛んだ

● 認知症予防自立支援のための研究事業

(福) みささぎ会・藤井寺特別養護老人ホーム認知症予防自立支援プロジェクト事業推進室から臨床心理士で研究員の桑田直弥(くわたなおや)さん

● 児童福祉施設職員の養成講座

(福) 和泉乳児院・和泉幼児院から児童指導員の黒岩奏子(くろいわかなこ)さん

黒岩さんは、この養成講座を受講して児童養護施設に就職した職員である。

冒頭、若手職員が先進的取組事業でのやりがいや感想などを話した後、会場の参加者からは、感想とともに事業内容に関することや、発表事業に取り組む際に不安や戸惑いがなかったかなどの質問があった。

具体的には－

「人材難といわれ、本来業務で忙しい中でそれぞれの活動に携わることについてどう考えますか」

「どんな時にやりがいを感じますか」

「皆さんから見て地域や、事業に関わる人びとがどのように見えますか、またどのように変わったと感じますか」

といった質問に対し、登壇者からは－

「これまで、利用者やその家族に限定して仕事をしているようなところがあったが、この事業に従事して身近な地域の中には、本当にさまざまな課題を抱える人々がいることがよくわかりました」

「仕事はしんどいですが、ありがとうなどの感謝や励ましの言葉に救われ、そこにやりがいを感じています」

「生活相談を受けた内容は職場で共有し、上司や施設長からもきちんとフォローしてもらっています」

「この事業が、職員のスキルアップにつながっています」

などの感想や回答があった。



同世代が意見を交わす



激励と期待のコメントー佐藤貞良准教授



佐藤准教授からは発表した5つの事業について、「従来の受け皿としての社会福祉法人の枠にとどまることなく、地域の切実な福祉課題等の把握に努め、それに応えようとする極めて先駆的で開拓的な事業である」と評された。それとともに、「社会福祉法人が今後も税の優遇措置を受けて事業が行えるよう、社会貢献事業等の地域貢献活動を公益的な役割であると十分に認識し、その実績を積み上げてもらいたい。その仕組みとして、市町村単位で『社会福祉法人地域貢献委員会』とい

うようなものを組織して活動することも大切。ぜひとも今日の実践の姿を全国発信し、このような取り組みがさらに広がりを見せるようこれからの期待したい」とコメントした。

職員が成長を実感できる職場風土づくり

最後に関川教授は、「福祉は人が人を支える仕事であり、人材の確保・定着のためには、職員たちの頑張りに対するはげましや、職員自身、又日頃の仕事を通じて成長が実感できる工夫づくりが必要であり、上司や経営者を含め法人・施設全体にとっても大切なこと。今日のセミナーをきっかけに、これからも地域福祉をリードする活躍に期待する」と締めくくった。

セミナー開催にあわせ、会場横のロビーでは、経営者部会会員である6法人が地域貢献実践事例のパネル展示発表を行った。

- (福) 成光苑・特別養護老人ホーム高槻けやきの郷 (地域交流について)



福祉をリードする活躍を一関川教授

- (福) 吹田市社会福祉協議会 (社協が支援する地域貢献活動：施設連絡会)
- (福) 寿楽福祉会・特別養護老人ホーム寿楽荘 (吉志部神社復興支援チャリティコンサート)
- (福) 晋栄福祉会・くすのき介護相談センター (小さな事業所が行う地域サロンへの取り組みについて)
- (福) 稲穂会・特別養護老人ホームやすらぎの園 (認知症の啓発事業)
- 社会福祉法人みささぎ会・藤井寺特別養護老人



パネルを前に会話がはずむ

ホーム(認知症予防自立支援のための研究事業)
*事例発表に同じ

福祉人材センターとの連携

なお、このセミナーは大阪府福祉人材センターと共催し、「福祉・介護人材マッチング支援事業」の一環として実施した。

事業の周知段階から、府福祉人材センターのキャリア支援専門員が養成校などを訪問するとともに、福祉の就職フェアの参加求職者にもチラシを配布し、セミナーの周知を行った。

その他、府政だより、新聞などにも記事を掲載し広く一般にも周知した。

ガンバってます！^{まち}地域の社会福祉法人 —Starting Over!—

「励みになる。私も何かできればと思った」
「現場の苦悩が聞けて、心構えができた」(一般)

「どの事業も魅力的。この先も継続して全国に広まればいいと思った」「職員さんの熱意が感じられた」「大学や教育機関との協働事業があればいい」(学生)

「たくさんのヒントをもらった」(教員)

「行政のできないことを地域の社会福祉法人が行っていることを知った。少しでも取り入れたいと思う」「大阪だけでなく全国で展開すればいい」「目標をもって熱心に活動される姿は、自己研鑽に大いにつながる」(高齢者福祉施設職員)

「人のために頑張っている姿や話を聞いて私も明日からまた頑張りたい」(児童福祉施設職員)

セミナー終了後の参加者アンケートは、好意的な感想が多数を占めた。

一方、反省すべき感想もいくつか寄せられたが、このセミナーを新たな出発点として、多くの社会福祉法人がこういった先駆的な取り組みを積極的に進めていこうとするきっかけづくりのイベントができたことは良かったと思っている。

これからも、社会福祉法人の地域貢献事業やそれを現場で支えるスタッフのいきいきとした姿、奮闘ぶりをもっともっと「見える化」させ、事業に取り組む動機づけになるよう、福祉職場で働く者たちを元気づけるとともに、福祉現場のイメージアップにつながるよう若い人たちへ発信したいと考えている。

最後に、セミナーの開催に際して、後援いただいた大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科の学生（関川ゼミ）達には、事業周知の段階から参加してもらい、学生らしいやわらかな発想でさまざま



学生ならではの発想が次つぎと

な意見や提案をいただいた。また、セミナーの宣伝のための新聞広告の見出しについてもアイデアを出し合うなどたいへんお世話になった。この誌面を借りてお礼申し上げます。

〈参考資料〉

- 先進的取組パイロット事業一覧（大阪府）
- 平成20年度社会福祉施設雇用管理実態調査・福祉系学校学生の意識調査（大阪府社協／大阪府）

入場無料

先進的福祉活動セミナー

地域社会の拠点を目指して意欲的な活動を行っている社会福祉法人の取り組み発表、若手職員や福祉職場を目指す学生連によるディスカッション等を通して、やりがいのある福祉・介護職の魅力を発信するイベントを開催します！

プログラム

基調講演
大阪府立大学
人間社会学部
関川芳孝教授

意見交換会
先進的活動に取り組んでいる
若手職員と福祉職場を目指す
学生・経営者による
パネル・ディスカッション

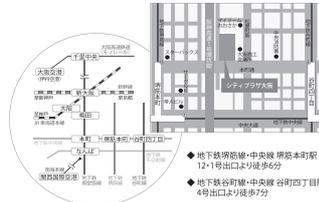
事例発表
様々な分野で先進的の事業に取り組む
5団体のプレゼンテーション

- 児童福祉施設職員の養成講座
- 認知症予防自立支援のための研究事業
- 保育園を中核とした地域貢献生活サポート事業
- 園芸福祉を通じた地域貢献事業
- 社会福祉法人による社会貢献事業（生活レスキュー活動）

展示コーナー
地域への貢献活動・交流活動
などの先駆的取り組みを
積極的にしている法人・施設の
活動風景をパネル展示で
紹介します

2010年2月14日(日)
13:30~17:00 (開場 13:00)
会場：シティプラザ大阪
(大阪中央区本町筋2番31号)

要事前申込
参加希望の方は下記までお問い合わせください
(福)大阪府社会福祉協議会 経営者部会
大阪市中央区中寺 1-1-54
TEL 06-6762-9001
FAX 06-6762-2426
http://www.osakafusakyokyo.or.jp/
E-mail: keieisy@osakafusakyokyo.or.jp



- ◆ 地下鉄御堂筋線・中央線 堺筋本町駅
12分 谷町線より徒歩5分
- ◆ 地下鉄谷町線・中央線 谷町四丁目駅
4分 出口より徒歩7分

主催：大阪府、(福)大阪府社会福祉協議会・大阪府福祉人材センター 後援：大阪府教育委員会、公立大学法人大阪府立大学、学校法人玉手山学園 関西福祉科学大学

先進的取組パイロット事業一覧（大阪府）

	事業名称（事業者名）	事業内容	参加法人（施設）等
1	よい子ネット構築事業（よい子ネット実行委員会） 【H17採択】	携帯電話ネット上に保育園447園のホームページを作成し、防犯・防災・危険情報のメール配信を行う。地域ブロック別から各市町村別へと、より身近に必要な情報を迅速に得られるようにする。	陽気保育園を中心に、ラジオ関西株式会社、大阪府警本部、大阪府社会福祉協議会保育部会が協業団体として参加
2	大学生等に対する児童福祉施設職員養成事業（これからの児童福祉施設職員を育てる会実行委員会） 【H17採択】	児童福祉施設へ就職希望者への人材養成講座 【内容】0-17「ワークショップ」等を中心とした実践的内容 【回数】年間20回60時間 【人数】25～30名程度	社会福祉法人 和泉乳児院を中心に、清心寮、あゆみの丘、児童養護研究会が協業団体として参加
3	認知症高齢者2015サポート事業（認知症高齢者2015サポート事業実行委員会） 【H17採択】	認知症高齢者ケア研究会を設置し、ケアのスキルアップを中心とした研究を進めるとともに、広く地域に向けて、学習会やコンテスト等を開催し、その啓発に努める。	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団を中心として、大阪府社会福祉協議会、大阪府介護福祉士会が協業団体として参加
4	共生のまちづくり事業（共生のまちづくり事業実行委員会） 【H18採択】	1. ミニFM局を開局し、地域情報発信事業を展開。 2. 「三島ルミナリエ」を開催し、イルミネーションコンテスト等を実施。 3. 「つながりまつり」を開催。車椅子体験、高齢者疑似体験、妊婦体験・新生児育児体験等を実施。	菜の花（精神障害者地域生活支援センター）を中心とし、茨木市人権三島地域協議会、NPO法人三島コミュニティ・アクションネットワーク、三島地区福祉委員会、三島地区民生委員児童委員会、三島小学校、三島中学校ほか協業団体として参加
5	認知症予防自立支援プロジェクトチーム認知症予防自立支援の為に研究事業（社会福祉法人みささぎ会） 【H18採択】	認知症予備軍と言われる、在宅で生活されている地域の昼間独居等の高齢者の方々に対して学習教材を用いることで、認知力、理解力、特に記憶力の維持向上につなげる事を目的として、認知機能、理解力、記憶力等の調査、研究を実施する。	社会福祉法人 みささぎ会 藤井寺デイサービスセンター、藤井寺特別養護老人ホーム
6	園芸福祉を通しての地域福祉ネットワーク作り（社会福祉法人清松福祉会） 【H19採択】	・施設職員の園芸福祉士 養成講座等への参加。 ・地域のボランティアを募集し、地域住民との関わりを広げる。 ・オリジナルの園芸福祉の案内パンフレット等を作成し、地域への広報活動を行う。	社会福祉法人清松福祉会（特別養護老人ホーム 夢心）
7	いきいき貯筋講座（社会福祉法人享佑会） 【H19採択】	・バランスボールを使用したエクササイズを指導推進する。	社会福祉法人享佑会 特別養護老人ホームファウォーレ、ケアハウス・フレスコ
8	保育園における地域貢献生活サポート事業（地域貢献事業実行委員会） 【H19採択】	・保育園と関係機関等との連携のあり方検討 ・保育園への実態調査 ・地域貢献事業の推進を担う人材養成研修カリキュラムの構築、モニター研修の実施、本格実施 ・地域貢献事業のモデル事業の実施、本格実施 ・地域貢献事業に関する理事長・園長研修の実施	千里山やまて学園を中心施設とし社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会保育部会が協業団体として参加
9	園芸福祉を通じた地域貢献事業（園芸福祉を通じた地域貢献実行委員会） 【H19採択】	「ホライズン園芸福祉の地域展開」 地域の方により多く参加してもらうため、コミュニティガーデンを開設し、運営する。 「福祉施設等園芸福祉研究会および人材育成事業」 園芸福祉に取組む団体との交流を進め、情報交換等行い相互研鑽に努める。コミュニティガーデンを活用した研修を実施し、園芸福祉に関する人材育成に協力する。	社会福祉法人 水平会（特別養護老人ホームホライズン）を中心施設とし、特定非営利活動法人福祉のまちづくり実践機構、特定非営利活動法人たかつき、株式会社美交工業が協業団体として参加

民間社会福祉施設実態調査 (平成20年度実施)

実施主体：大阪府、(福)大阪府社会福祉協議会及び経営者部会
対象施設1,382施設 回収施設712 (回収率51.5%)

1 職員の確保 (新たな職員の採用) の状況

	施設数合計	困難な状況ではない	やや困難な状況である	大変困難な状況である
高齢者施設	295箇所	37 (12.5%)	110 (37.3%)	148 (50.2%)
障がい者施設	90箇所	13 (14.4%)	39 (43.3%)	38 (42.2%)
救護施設	13箇所	3 (23.1%)	4 (30.8%)	6 (46.2%)
児童施設	314箇所	76 (24.2%)	176 (56.1%)	59 (18.8%)
総計	712箇所	129 (18.1%)	329 (46.2%)	251 (35.3%)

無回答 3 (0.4%)

3 職員の定着が図れている施設の主な理由 (複数回答可) ベスト5

	NO.1 良好な人間関係が確立している	NO.2 仕事にやりがいがある	NO.3 適正な業務量のバランスが図れている	NO.4 勤務時間や休暇制度が充実している	NO.5 職員相談等のサポート体制が充実している
高齢者施設	91 65.5%	49 35.3%	64 46.0%	54 38.8%	32 23.0%
障がい者施設	35 62.5%	30 53.6%	14 25.0%	21 37.5%	7 12.5%
救護施設	4 57.1%	4 57.1%	2 28.6%	6 85.7%	
児童施設	147 70.7%	139 66.8%	81 38.9%	65 31.3%	50 24.0%
総計	277 67.6%	222 54.1%	161 39.3%	146 35.6%	89 21.7%

*参考 給与等の待遇が充実 69 (16.8%)

2 職員の定着 (採用した職員の継続的雇用) の状況

	施設数合計	定着が図れている	あまり定着が図れていない	定着が図れていない
高齢者施設	295箇所	139 (47.1%)	138 (46.8%)	14 (4.7%)
障がい者施設	90箇所	56 (62.2%)	34 (37.8%)	
救護施設	13箇所	13 (100%)		
児童施設	314箇所	208 (66.2%)	100 (31.8%)	2 (0.6%)
総計	712箇所	410 (57.6%)	278 (39.1%)	16 (2.2%)

無回答 8 (1.1%)

4 社会や地域への貢献事業の施設職員の参加状況

	施設数合計	取組んでいる	取組みを検討する	取組んでいない
高齢者施設	295箇所	201 (68.1%)	60 (20.3%)	29 (9.8%)
障がい者施設	90箇所	59 (65.6%)	18 (20.0%)	12 (13.3%)
救護施設	13箇所	13 (100%)		
児童施設	314箇所	208 (66.2%)	70 (22.3%)	32 (10.2%)
総計	712箇所	481 (67.6%)	148 (20.8%)	73 (10.3%)

福祉系学校 (大学、短大、専門・専修学校) 調査 (平成20年度実施)

(実施主体：大阪府、(福)大阪府社会福祉協議会、大阪府福祉人材センター)
・対象学科数 (学校数) 121課程 (69校)
・回収学科数 (学校数) 94課程 (56校) 回収率77.7%

1 福祉系学校の入学者数の減少率等

年度	定員数	入学者数	充足率 入学者数÷定員数	H17を基準にした入学者数の減少率及び減少率
17	6,155人	6,539人	106.2%	—
18	6,515人	6,078人	93.3%	▲ 461人 (▲7.6%)
19	7,785人	5,889人	75.6%	▲ 650人 (▲11.0%)
20	7,560人	5,114人	67.6%	▲ 1,425人 (▲27.9%)

2 福祉系学校卒業者の就職状況 (福祉系職場の就職率)

年度	就職者数	うち就職者の状況			福祉系職場への就職率 *福祉系就職者数
		福祉系	福祉系以外	その他	
17	4,543人	2,900人	1,643人	0	63.8%
18	4,743人	2,843人	1,891人	9	59.9%
19	4,491人	2,757人	1,729人	5	61.4%

3 学生が福祉職場に就職し、定着するための主な条件 (複数回答可) ベスト5

*学科単位で回答

NO.1 給料のアップ	NO.2 良好な人間関係	NO.3 福祉職場の社会的評価の充実	NO.4 キャリアアップ体制の充実	NO.5 出産・育児等の休暇制度の充実
79課程 84.0%	41課程 43.6%	35課程 37.2%	34課程 36.2%	28課程 29.8%

福祉系学校在籍学生の意識調査 (平成20年度実施)

(実施主体：大阪府、(福)大阪府社会福祉協議会、大阪府福祉人材センター)
・対象学生数 1,499名 ・回収数 908名 (回収率 60.6%)

1 就職先を決めるにあたって重視すること (複数回答可) ベスト5

NO.1 職場の雰囲気	NO.2 収入 (賃金等)	NO.3 通勤の利便性	NO.4 仕事の内容	NO.5 職場の理念や方針
652人 71.8%	423人 46.6%	358人 39.4%	308人 33.9%	225人 24.8%

2 学校卒業後の進路

	福祉関係への就職	福祉以外へ就職 進学等	進学等その他	その他
大学	214人 61.1%	110人 31.4%	9人 2.6%	16人 4.6%
短期大学	114人 57.3%	44人 22.1%	25人 12.6%	12人 6.0%
専門・専修	318人 88.6%	18人 5.0%	9人 2.5%	9人 2.5%
合計	646人 71.1%	172人 18.9%	37人 4.1%	37人 4.1%

無回答 10人 1.1%

3 福祉関係職場へ希望する学生のその理由 (複数回答可) ベスト5

NO.1 やりがいのある仕事だから	NO.2 人と接する仕事 がしたいから	NO.3 自分の能力や資 格を活かせるから	NO.4 人の役に立つ仕 事がしたいから	NO.5 自分の適性にあ っているから
397人 61.5%	243人 37.6%	209人 32.4%	208人 32.2%	188人 29.1%

4 福祉関係職場へ希望する学生の働き続けていくために必要な条件 (複数回答可) ベスト5

NO.1 良好な人間関係	NO.2 仕事のやりがい	NO.3 相談体制の充実	NO.4 休暇制度や福利 厚生面の充実	NO.5 能力や職務に応じた 給与体系の整備
522人 80.8%	350人 54.2%	237人 36.7%	199人 30.8%	190人 29.4%